

おわりに

司会 高安久雄

それでは時間が参りましたので、このシンポジウムをこれで終りにさせていただきたいと思えます。司会者として最後に本日のシンポジウムの成果をまとめさせていただきますと、次のようになるかと思えます。

1) 緑膿菌による尿路感染症に対しては、カスガマイシンは、主として筋肉注射による成績であるが、優秀な成績を収めたことが立証されました。

2) その他の領域におきましては筋肉注射及び局所的な使用とが併用されておる症例もありますが、局所的な使用のみにも、外科の創傷、耳鼻科の中耳炎、眼科の角膜炎、皮膚科における火傷、潰瘍等の緑膿菌感染の治療に優秀な成績が得られたということでもあります。

我々の専門領域である泌尿器科に限りましても、最近

尿路感染菌としての緑膿菌の分離頻度が増加していることは世界的な傾向で御座います。このとき、従来の各種化学療法剤に対して自然耐性の傾向を示す緑膿菌に対して、カスガマイシンが新たに登場したことはまことに意義が深く、またこれからその治療成績が期待されることであろうと思えます。

本日ここに御発表になつた成績は、おそらく世界の注目的になることと私は考えております。この貴重な成績を御多忙中のところ発表下さいました演者の方々には、私から厚くお礼申し上げますと共に、この機会を与えられました会長の河盛先生に深く感謝の意を表する次第でございます。また、本日の発表に当たりまして各研究機関にアンケートをもちましてお願いいたしましたところ、心よく御協力賜つたのでございまして、以上の各主任の皆様にも厚く感謝の意を表する次第でございます。御静聴有難うございました（拍手）。